

令和7年度 学校評価

本年度の 重点目標	【重点目標1】 安全で安心な教育環境の整備 【重点目標2】 幼児児童生徒一人一人の実態や、最新の教育事情に即した授業改善 【重点目標3】 将来を見据え、幼小中高のつながりや社会につながるのある指導の実践 【重点目標4】 働き方改革の更なる推進		
項目(担当)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	留 意 事 項
幼稚部	子どもたちの知的好奇心や意欲を引き出す活動を設定し、気持ちや行動の調整を学びながら、社会生活において必要な人との関わり方の基礎的な力を育む。	・「なぜ?」「やりたい!」という気持ちがあるような環境設定や発問をする。 ・ねらいを定めた上で、達成までの過程に主体的な選択の場面や考える機会を多く用意する。また活動の振り返りができるように、時間配分や内容の検討をする。 ・活動の様子を保護者にも伝え、一緒に楽しむ活動を設定したり、褒めてもらう機会を増やしたりする。	・発達段階等に合わせ、一人一人に伝わる方法で提示したり、環境の整備をしたりする。 ・子どもたちの思いに寄り添って活動を進め、うまくいかない経験も大事にする。場面に応じて、ルールやマナーについて伝え、実際に体験しながら身に付けられるようにする。 ・部懇談や日々のやり取りの中で、保護者にも活動の意図や子どもたちの様子を細かく伝え、保護者の安心感も大切にする。
小学部	子どもたちが、感じたこと、学んだことを表現できる力と聞く姿勢を養うと共に、表現し合う場の設定を工夫する。	・話す、伝える、聞くための方法を伝え、確認していく。 ・授業等での表現し合う場の設定、異学年で関わる場の設定をする。 ・授業や行事、体験活動を通して、できたこと、分かったことの振り返りを行う中で、子ども自身ができた実感を重ね、表現したい気持ちを養う。また、分からないことや疑問を伝えられることを大切にしていく。	・言葉や表現を新たに学び、活用できるように、担任だけではなく関わる職員で協力して取り組む。 ・学年や部、学校をまたいで、いろいろな子どもや大人と接する機会を設定していく。 ・分からないことを安心して伝えられる環境を作ることに努める。
中学部	生徒一人一人の実態やニーズに即した指導を行うことで、自己肯定感を育む。	・生徒の実態を把握し、情報を共有しつつ、職員間で検討しながら適切な支援をする。 ・主体性を尊重しつつ、努力や成長を認める機会を設定する。 ・キャリアパスポートを積極的に活用することで、学びと活動を振り返り、自己の変容や成長を自己評価する機会を設ける。	・将来を見据え、生活年齢に即した指導を心掛ける。 ・生徒自身が自らの成長に気が付けるよう言葉掛けをしていく。
高等部	安心で安全な環境を維持し、感謝の心を育む。 自ら生き方を選び、進んで社会に参加しようとする生徒を育てる。	・部集会（木曜日 LT）で、今週感じた幸せを発表し、生徒全員で共有する。 ・キャリア教育や校外活動を通して社会に参加する機会を設ける。	・見つけた幸せから感謝へ発展し、何事にも感謝の心があると学校生活が豊かになる実感を積む。 ・教育課程ごとに機会を設け、弾力的に扱う。

総務部	ホームページを活用した情報発信を行う。 次年度以降も見据えた業務の整理や、繁忙期の業務を分散する。	・学校だよりの代替として、ホームページを活用し、必要な情報を発信する。 ・定期的に業務を見直して効率化を図ったり、長期休業を活用して繁忙期の業務を削減したりする。卒業式などの繁忙期では、デジタルツールや共通データを活用し、効率化を図る。	・幼児児童生徒や保護者だけでなく、地域の方にも必要な情報や学校の啓発に繋がる情報を精選し、適宜掲載する。 ・新しい視点で業務を見直し、必要に応じてデジタルツールを活用する。また、年間の業務内容を提示し、部員が見通しをもって計画的に業務を進められるようにする。
教務部	幼児児童生徒が豊かなかわりを持ち、幼小中高のつながりを深める。教務の手引きを改定し、データ化を進める。	・教務間で連携し、部をまたいだ交流や授業実践を各部間で行う。 ・校務支援システムの導入を踏まえた形に改定する。 ・データを確認・整理し、分担してデータ化を進める。	・安全で有意義な実践となるよう、教員間で幼児児童生徒の実態やねらいを共通理解しておく。 ・各部の手引きを照合し校内で統一されたものとなるようにする。 ・情報を精選し、分かりやすいものになるようにする。
情報部	GIGA スクール構想に沿って、ICTや生成AIの活用について学校全体に発信し、授業や業務の改善に生かす。	・各種システムや生成AIが円滑に活用できるように整備し、学習指導や業務改善に生かせるように働きかける。 ・ICT教育の充実を図り、児童生徒が様々なICTツールを学びに活かせるようにする。	・研修等を通して、各ICTツールや生成AIの活用方法や実践例を発信し、教師が日常的に使うことができるようにしていく。 ・ICTツールや生成AI利用についての留意点を整理し、適切に扱えるようにする。 ・情報機器や個人情報の保護、著作権の適切な扱いについて、その都度注意を呼び掛けていく。
指導部	いじめ・不登校などの課題の早期発見と早期対応を組織的に行い、子どもたちが安心して生活できる環境を整える。	・学校生活アンケートを効果的なタイミングで実施し、これを活用して日々子どもたちの変化や予兆を見逃さない体制を整える。 ・複数の教員で、定期的かつ継続的に面談を実施し、相談しやすい環境を作る。 ・SC・SSWなどの専門機関を積極的に活用し、支援の幅を広げる。	・本校のいじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応を行う。 ・各種行事や外部講師の活用を通じて、子どもたちが自らの生活について主体的に考え、行動する力を養う。 ・職員に対して生徒指導や教育相談に関する情報を提供し、発達段階に応じた指導や支援に繋げる。 ・SCやSSWの活用方法に関する情報を整理し、職員・保護者に周知する。
保健体育部	発達段階に応じた、健康面や安全面における配慮や支援をすることで、生活習慣と関連付けた健康づくりを目指す。	・病気の予防に関する正しい知識を身に付けたり、けがの予防に取り組んだりすることで、安全で安心な学校生活が送れるようにする。 ・健康や食事などに対する関心を高めることで、生活習慣の改善に結び付けられるようにする。	・感染症対策、熱中症予防など適切な情報を発信する。 ・日頃から点検や整理整頓を心掛け、健康面や安全面に配慮した環境を整備する。 ・健康や食育についての情報を学校内外に発信し、相互理解を得られるようにする。

保健体育部			・健康の保持増進について、子供自身が日常的に意識できるように、発達段階に応じた指導や支援を行う。 ・外部講師による講演会を設定し、専門性の高い知識が得られるようにする。 ・校内研修に取り組み、職員の健康や安全に対する知識を深められるようにする。
進路指導部	幼稚部段階から将来を見据え、発達段階に合わせたキャリア教育、進路指導を推進できるようにする。	・進路個別懇談の積極的な利用を呼び掛け、保護者が早い段階から進路について考えられるようにする。 ・中高生徒保護者向け企業等見学会への積極的な参加を呼び掛け、生徒と保護者が具体的に進路を考えられるようにする。	・必要に応じて、各部の部懇談で利用を呼び掛ける。 ・進路希望調査を活用して、生徒の希望や実態に合った見学先を選定する。
研修・自立活動部	研修や校内研究の内容や実施方法を工夫しながら充実を図り、聴覚障害教育の専門性を高める。また、それを幼児児童生徒の指導や支援に生かす。	・聾学校教員として専門的な指導ができるような研修を設定したり、情報を発信したりする。 ・幼児児童生徒や保護者へ、自立活動に関する視点や情報を提供する。 ・校内研究での取組を学校全体で共有することで、授業改善や日々の指導に生かす。	・聴覚障害教育の専門知識や技術の継承ができる研修を計画し、継続した指導につなげる。 ・自立活動だよりが幼児児童生徒や保護者にとって有益なものとなるよう努める。また、校内の自立活動に関する掲示物の充実を図る。 ・校内研究（3年継続3年目）を見通しをもって進められるように推進する。また、部や学校全体で取組を共有できるような機会を設ける。 ・研修・自立活動部員の手引きを活用し、業務改善に役立てる。
教育支援部	地域の学校や関係機関との連携を密にし、校外及び校内の幼児児童生徒に対して専門性の高い教育環境の整備を推進する。	・聴覚障害教育担当職員研修会や事業所との連絡会、聴覚支援だよりの配付、難聴理解授業などの活動内容を見直し、改善して継続する。 ・聴覚障害教育に関する基本的に必要な事項が継承されていくように、グループウェアなどを活用し、情報を積極的に提供したり、相談に応じたりする。	・地域に対する研修会や連絡会は、ニーズを把握した内容で行うようにする。また、聴覚支援だよりの内容を工夫するなど、本校の活動を効果的に発信し、積極的に関わっていくようにする。 ・校内の職員のニーズを把握し、研修・自立活動部や各部と連携して支援を進めていくようにする。
寮務部	望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする主体的な態度を育てる。	・自治会活動や行事の計画、運営に際し、多角的なアイデアを生み出し、伝え合う機会を設定する。 ・よりよい生活を送るために達成すべき目標を定め、その手立てを寄宿舎指導員と舎生で話し合う。	・舎生一人一人が、寄宿舎の行事計画、運営に対して、多角的に考えられるよう誘導し、自分の意見を伝えて伝えることができるようにする。 ・課題や指導方法などを寄宿舎と担任、各部で共通理解を図る。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	1 幼児児童生徒が安心して過ごすことのできる情報環境と、主体的に活動できる教育環境を整え、教育活動の充実を図る。 2 聴覚障害教育の専門性のある主体的・対話的で深い学びのできる授業の工夫をする。 3 幼小中高や社会のつながりを意識した指導や支援を実践する。 4 学校生活アンケートの実施、活用や、ＳＣ等との連携を図り、いじめの早期発見や児童生徒の心理面の支援を充実する。 5 愛知県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の方針に基づき、本校の働き方改革ロードマップに沿った取組を進める。
---------------------------	---